

アリーナ先進事例紹介

• ゼビオアリーナ仙台	1p
• 横浜アリーナ	4p
• 沖縄アリーナ	8p
• 愛知国際アリーナ	11p
• 太田アリーナ	13p

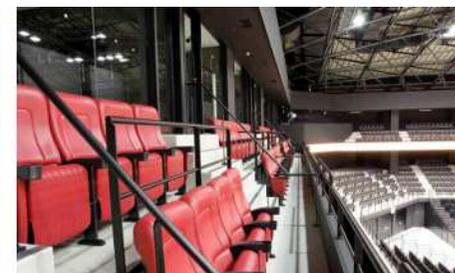
ゼビオアリーナ仙台の概要

施設概要／事業概要



エントランスの天井部分を
広告スペースとして活用
施設自体をメディア化し
て情報発信に力を入れ、
積極的に収益性を向上

また、B1 仙台89ERSの
ホームアリーナとして活用



VIPルームを10部屋用意（個室+特別バルコニー観覧席）
パントリー併設により、ケータリングで食事、アルコール提供も可能



常設6面（4+2）センタービジョン+全長213mの360°LEDリボンビジョン
最新鋭の映像システム+音響システム



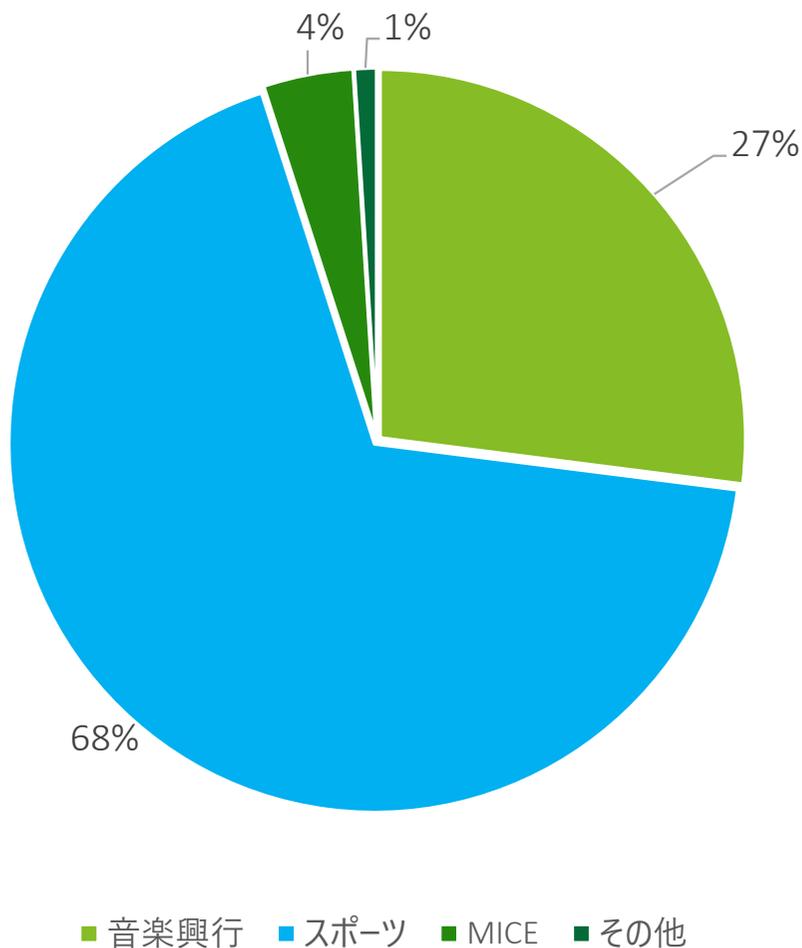
目の前の公園広場等と連携したイベント。イベント時は、
長町商店街が飲食ブースを出店するなど地域と連携

1階席は可動式ロールバックチェア、養生の必要がない土間フロアがベースとなっており、
ビーチバレー、土俵、アイススケートリンクの設置等、多様なイベントにも対応

ゼビオアリーナ仙台の概要

イベント概要

2012年10月～2016年10月時



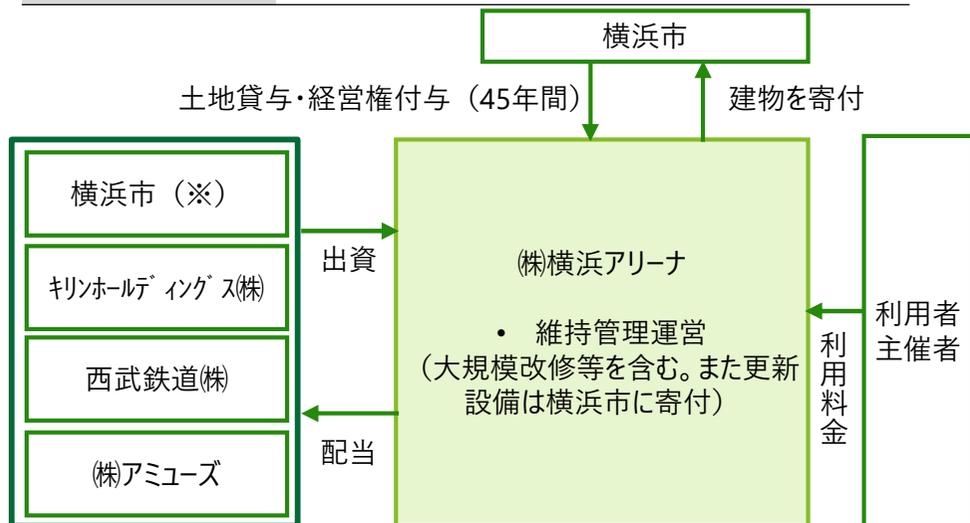
利用内訳 (2012年10月～2016年10月時)	
興行利用	
開催日数	不明
主なイベント	NEWS、EXILE、AKB48、乃木坂46、松田聖子、絢香、竹内まりあ、長渕剛、湘南乃風、ナオト・インティライミ、GACKT、浜崎あゆみ、IL DIVO、Sara Brightman 等
プロスポーツ利用	
開催日数	不明
主なイベント	FIBA WORLD TOUR FINAL (3x3世界一決定戦)、バスケットボール女子日本代表国際親善試合2014、日韓 V.LEAGUE TOP MATCH、仙台 89ers (bjリーグ)、仙台バルフィーユ (Vチャレンジリーグ)、ヴォースクオーレ 仙台 (Fリーグ)、bjリーグ ALL STAR GAME 等
MICE利用 (催事・展示・式典・コンベンション等)	
開催日数	不明
主なイベント	楽天野球団シーズンシートオーナー感謝祭、Together on Ice (羽生結弦選手五輪&グランプリファイナル&世界選手権三冠凱旋公演)、FIFAサッカーブラジルワールドカップ パブリックビューイング、JAPAN DRONE NATIONALS、「2016 World Drone Racing Championships」(10月ハワイ開催) 日本予選
その他イベント (ステージを活用した着席での発表会等、大会)	
開催日数	不明
主なイベント	不明

利用状況は年度によって異なり、2018年度は音楽興行が約50%を占め、スポーツは21%、その他31%となっている

横浜アリーナの概要

施設概要／事業概要

事業手法	・負担付寄附＋業務委託（維持管理・運営部分）
土地／施設所有者	・土地：横浜市／施設：横浜市（更新設備含む）
施設整備主体	・(株)横浜アリーナ（民間資金で建設後に市に寄付）
整備費	・約160億円（うち、付随工事約30億円。設計費は除く）
キャパシティー	・敷地面積：26,691㎡ ・延床面積：約45,800㎡（フロア面積約8,000㎡） ・音楽イベント時最大客席数：13,443席 ・プロスポーツ（プロレス）時最大客席数：17,000席
立地	・JR／地下鉄「新横浜駅」から徒歩4～5分
供用開始日	・1989年4月
利用料金	・土日祝日は興行利用は約6割増料金
営業時間／休館日	・365日24時間対応／休館日なし （ただし、年間最低30日は保守点検日を確保）



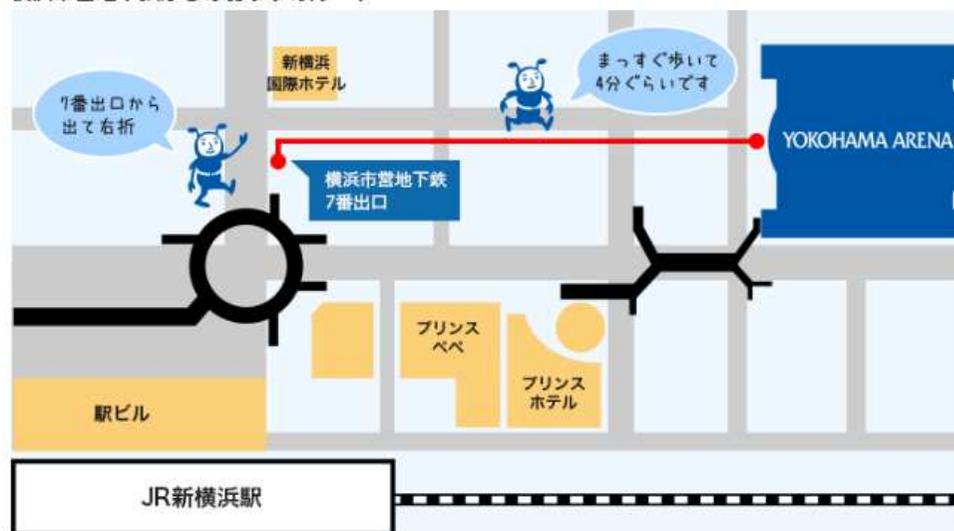
(※) 横浜市の支援は約40億円の出資

4 出所：横浜アリーナHP、横浜市HP、「オリンピックアクアティクスセンター、有明アリーナ及び類似施設の整備費について（東京都）」をもとに作成

JR横浜線・新幹線からのおすすめルート

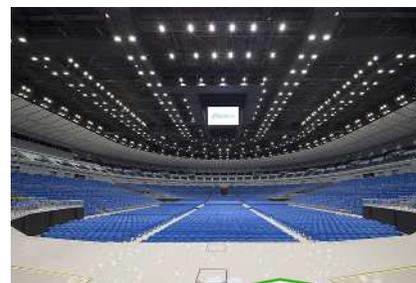
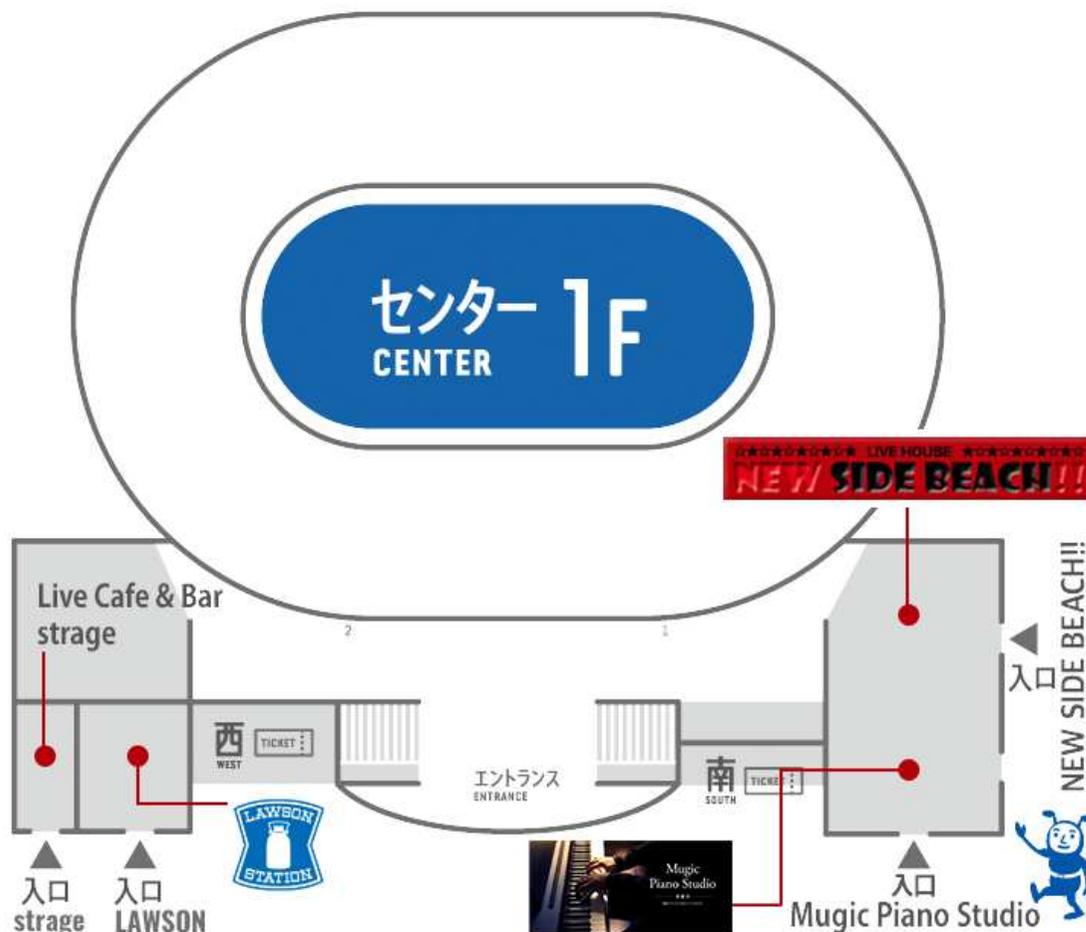


横浜市営地下鉄からのおすすめルート



横浜アリーナの概要

施設概要／事業概要



コンサート・ショー、コンベンション、スポーツ、物販・展示会、試験等が様々なイベントが開催可能な多目的ホール。天井中央には291インチの4面大型映像装置を常設し、映像放映、演出、各種告知等を実施



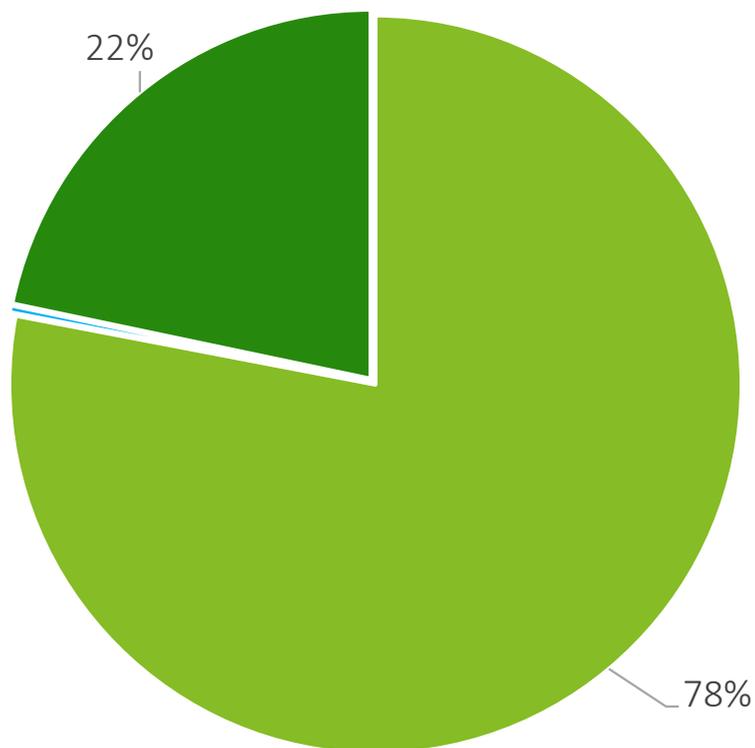
アリーナ内にコンビニ、カフェ・バーをはじめ、テナントが入居しており、利用者へ多機能なサービスを提供

「ボックス」8室、「スイート」2室を用意し、興行等のイベント時の収益性を追求

横浜アリーナの概要

イベント概要

2017年度実績



■ 音楽興行 ■ スポーツ ■ MICE ■ その他

利用状況は年度によって異なり、当該年度はプロスポーツ開催が少なかったが概ねの利用傾向として、音楽興行中心となっている

利用内訳（2017年4月～2018年3月）	
興行利用	
開催日数	【本行日】平日：59日 土日祝：97日 計：156日 【設営・撤去等】106日
主なイベント	Sexy Zone、ミュージカル「テニスの王子様」、X JAPAN、V6、桑田佳祐、DREAMS COME TRUE、パズリズムLIVE、東京ガールズコレクション 等
プロスポーツ利用	
開催日数	【本行日】土日祝：1日 【設営・撤去等】0日
主なイベント	RIZIN（格闘技）
MICE利用（催事・展示・式典・コンベンション等）	
開催日数	【本行日】平日：19日 土日祝：16日 内訳不明：2日 計：37日 【設営・撤去等】36日
主なイベント	物販・展示、Jリーグアウォーズ、「成人の日」を祝うつどい、オールナイトニッポン公開収録、企業式典 等
その他イベント（ステージを活用した着席での発表会等、大会）	
開催日数	【本行日】土日祝：1日 【設営・撤去等】0日
主なイベント	神奈川県マーチングバンドフェスティバル

横浜アリーナの概要

収支概要

2017年度実績

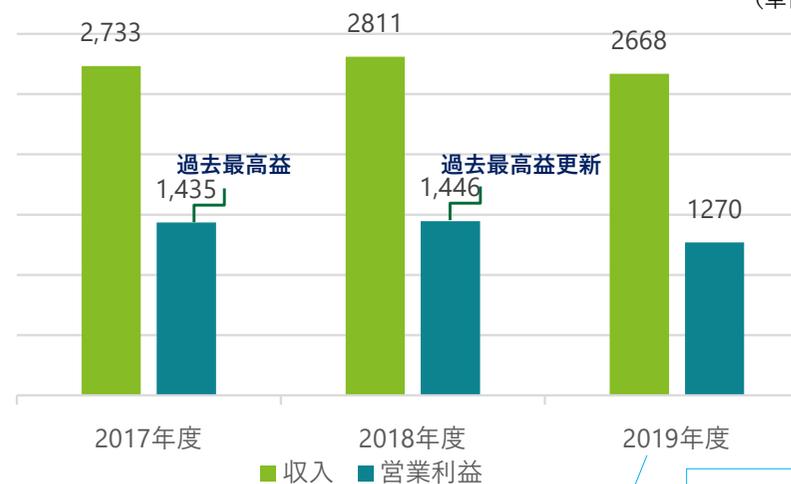
売上高に対する営業利益率が50%以上を占めている

(単位：千円)

収入	売上高	2,733,245千円
支出	売上原価	948,654千円 (売上高比率/34.7%)
	販管費	349,420千円 (売上高比率/12.8%)
収支差	営業利益	1,435,170千円 (売上高比率/52.5%)

コロナ禍までの3か年経営状況

(単位：百万円)

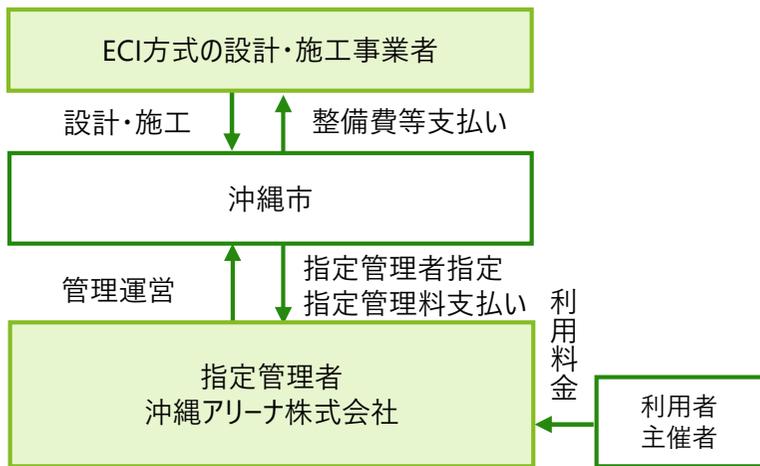


- コロナの影響
- ・イベントは31日キャンセル
- ・国、市からイベント自粛要請
- ・前納基本使用料金の全額返済

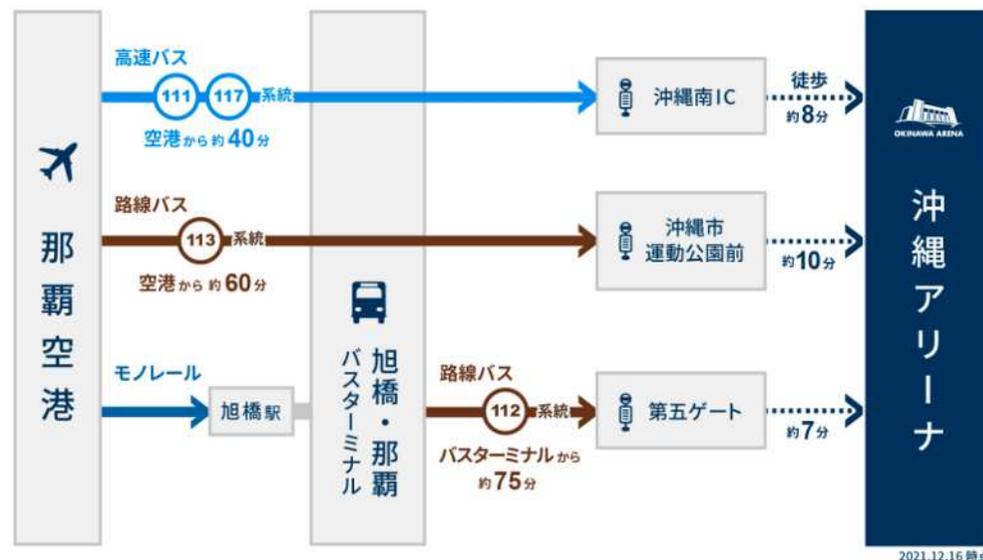
沖縄アリーナの概要

施設概要／事業概要

事業手法	・ ECI方式（※） + 指定管理者
土地／施設所有者	・ 沖縄市
施設整備主体	・ 施設整備：沖縄市 （運営：沖縄アリーナ株式会社）
整備費	・ 約150億円、その他関連工事費など約25億円 ※詳細は次ページ参照
キャパシティ	・ 延床面積：約28,000m ² ・ 音楽イベント時最大客席数：10,000席 ・ プロスポーツ（バスケ等）時最大客席数：8,000席
立地	・ 路線バス『沖縄市運動公園前』から徒歩約10分
供用開始日	・ 2021年3月
利用料金	・ 土日祝日は興行利用は10割増料金
営業時間／休館日	・ 9時～21時／不定休



（※） Early contractor involvementの略で主たる元請業者がプロジェクトの初期段階で関与して設計段階への意見を提供する建設契約の一種



2021.12.16時点



沖縄アリーナの概要

整備費概要

■本体工事費

(単位：円)

建築工事費	7,134,061,000
電気設備工事費	2,393,915,700
空気調和設備工事費	1,490,500,000
給排水衛生設備工事費	757,199,300
上記 1～4 に係る諸経費等	1,998,352,400
大型映像装置・リボンビジョン	1,155,000,000
合計	14,929,028,400

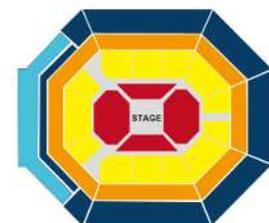
■その他関連工事費

(単位：円)

外構工事費等	457,930,000
駐車場整備工事費等	665,716,700
物件補償費	37,413,200
用地費	1,352,065,000
合計	2,513,124,900

沖縄アリーナの概要

施設概要／事業概要・イベント概要



センターステージ
観客数 10,000人



エンドステージA
観客数 8,000人



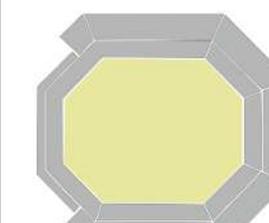
エンドステージB
観客数 8,000人



サイドステージ
観客数 7,000人



スポーツ・バスケットボール
観客数 8,000人



展示会
床面積 2600 m²

【施設概要】

沖縄アリーナは、来場する人々や主催者の利便性に重きを置いた「観る」ための施設

- すり鉢状に配置された観客席は、エンタテインメントの体感を高め、その熱気と喜びを演出
- 510インチ大型映像装置の設置、VIP専用エリア、スイートルーム、ラウンジ等、おもてなしを実現できる多様な設備や機能が整っており、質の高いエンタテインメント体験を提供することが可能
- また、コンクリート床仕上げのイベントフロアは県内最大の床面積を誇り、コンサートや展示会等の多様なイベントに対応可能

【事業概要・イベント概要】

- 直近では、B1 琉球ゴールデンキングス、FIBA バスケットボールワールドカップ 2023 アジア地区予選等のプロバスケットボールの試合の他、『湘南美容 presents RIZIN.36』等の格闘技の興行、2022男子バレーボール世界選手権 壮行試合 日本代表紅白戦等のプロバレーボールの試合、小田和正のコンサートやB'zのライブ等、プロスポーツや音楽イベントが開催されている
- 上記の他、今年にはブレイクダンスの世界大会「Battle of the Year」(以下、BOTY)決勝大会の開催が予定されており、スポーツ・エンタテインメントにおいて、多様な大規模なイベントが開催・予定されている

愛知国際アリーナの概要

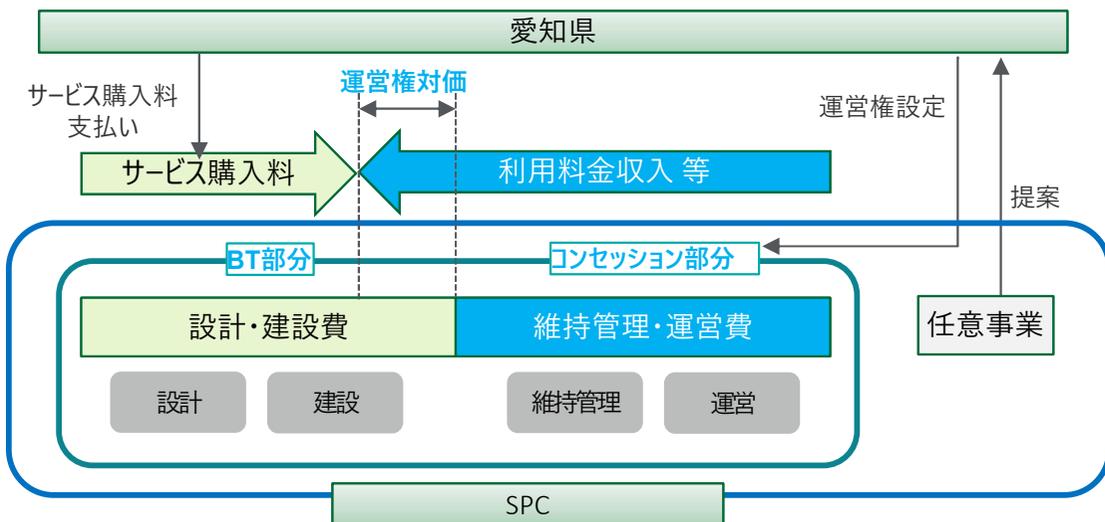
施設概要／事業概要

事業手法	・ PFI事業／BT+コンセッション方式
土地／施設所有者	・ 土地：財務省／施設：愛知県
施設整備主体	・ Aichi Smart Arena 代表企業：【整備時】前田建設工業 【運営時】NTTドコモ
整備費	・ 参考値 約400億円（運営権対価約200億円）
キャパシティー	・ 延床面積：約63,000m ² ・ 音楽イベント時最大客席数：立ち見含め17,000人 ・ プロスポーツ（バスケット等）時最大客席数：15,000席
立地	・ 名古屋市営地下鉄『名城公園駅』すぐ
供用開始日	・ 2025年夏を予定（供用開始前）
利用料金	・ 未定
営業時間／休館日	・ 未定



新幹線・JR・地下鉄・私鉄各線『名古屋駅』から電車で13分
名古屋市営地下鉄『名城公園駅』すぐ

- ・ 民間事業者が自らの提案をもとに設計・建設を行った後、県に新体育館の所有権を移転するBT方式、施設の管理運営をコンセッション方式とし、両者を特定事業とした一体の事業として実施
- ・ 入札方法については、設計・建設費相当額だけで約300億円である想定の実業費に対して、予定価格を200億円に設定
- ・ 想定する設計・建設費相当額と想定する運営権対価の差額分を応札金額の予定価格としている



愛知国際アリーナの概要

施設概要／事業概要・イベント概要



【施設概要】

- 愛知県が策定した基本計画のコンセプトは以下のとおりであり、多様なスポーツや音楽イベント等の開催が予定されている
 - 大相撲名古屋場所にふさわしい風格ある施設
 - ピンポン外交など50年以上の愛知県体育館の歴史を引き継ぐ施設
 - 全国大会を常時開催できる施設
 - アジア大会を始めとした国際大会を開催できる施設
 - 全国レベルのコンサート、イベント、コンベンション等の拠点となる施設

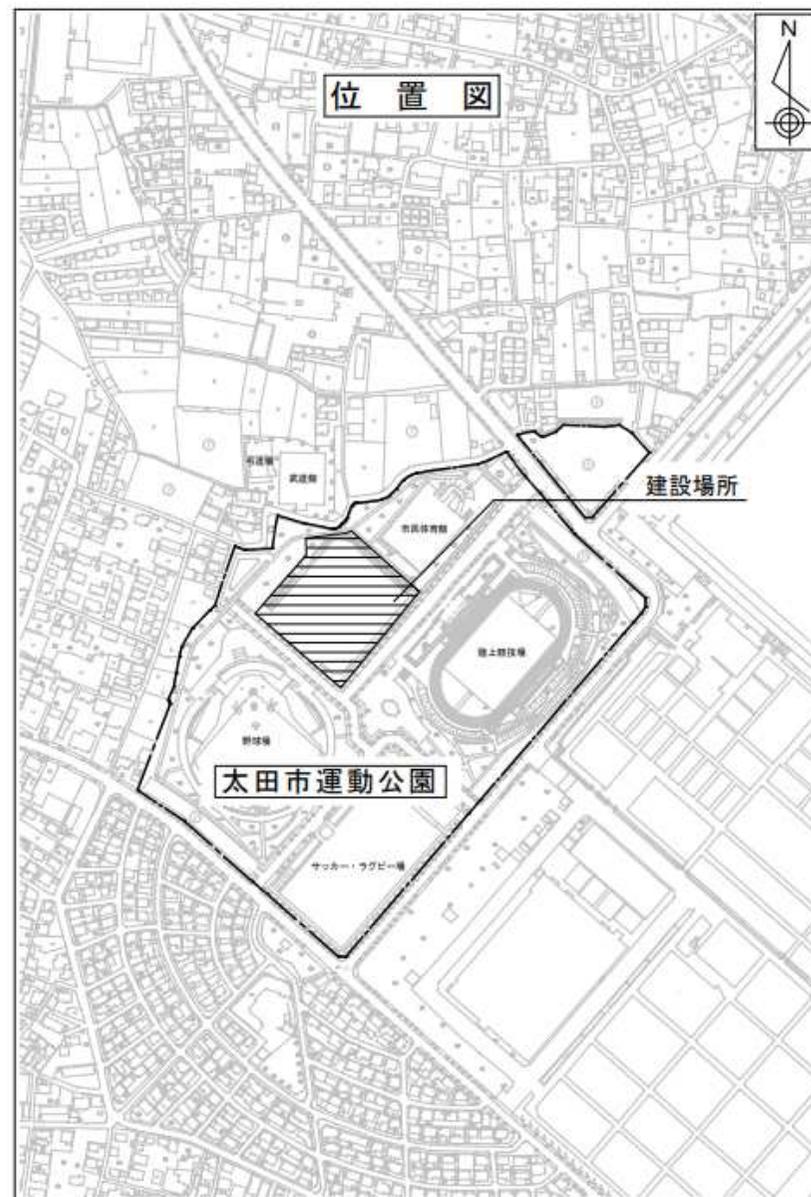
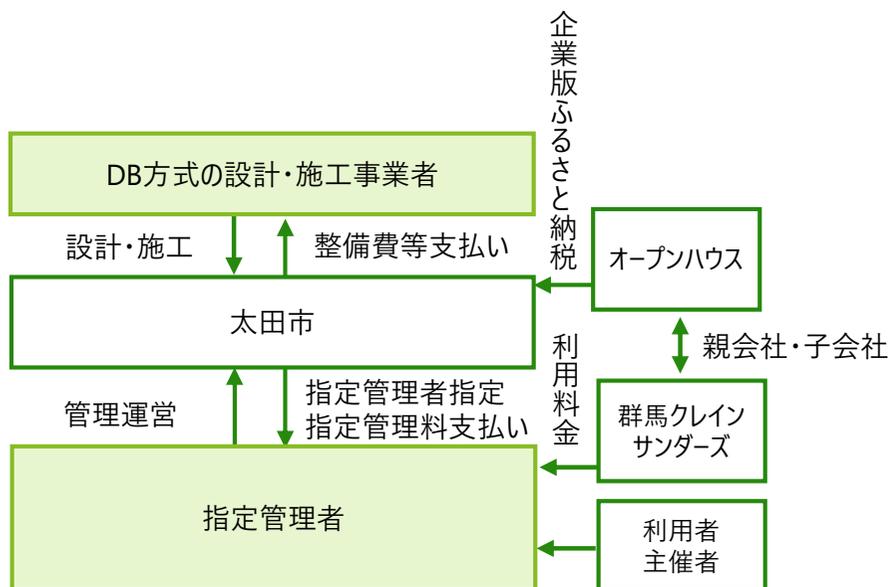
【事業概要・イベント概要】

- 施設整備時に付加価値を高めることによって、運営の収益性を高めることで、事業者から公共に支払われる運営権対価を設定した計画となっている
- 上記のコンセプトを実現するため、運営目線を重視し、整備段階・運営段階を一体的に事業化し、細部の仕様を公共では規定せず、民間事業者のノウハウを最大限に活かした提案を求めた
- 結果、実際の落札者の提案は、最新のテクノロジーの積極的な導入を推進するなど、要求水準を上回る世界最高水準の施設整備を実現（愛知県が想定した設計・建設費相当額以上の提案）。また、想定以上の運営権対価の提案を引き出したことで、応札額は予定価格内に収まっている
- 施設では、B1 名古屋ダイヤモンドドルフィンズのホームアリーナとしても活用されるとともに、5G通信によるアーティストとファンをつなぐ演出や、アリーナライブのリモート配信も想定されている
- アリーナ3階はVIPがスポーツやコンサートを鑑賞するための「VIPルーム」が40室以上配置される計画であり、施設のネーミングライツの権利も事業者に付与されている
- また、興行利用とは別に県民等の一般利用枠として年間60日を設定

太田アリーナの概要

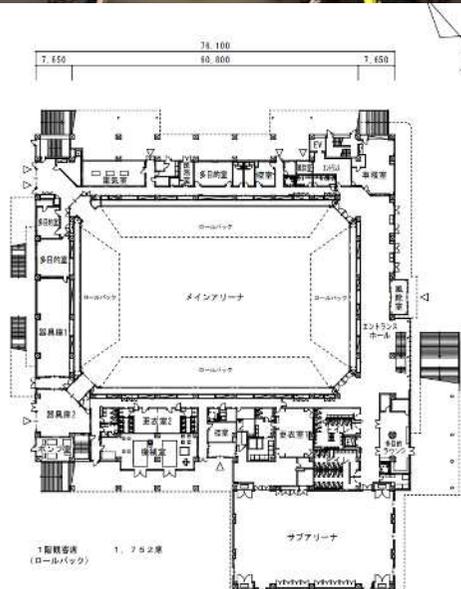
施設概要／事業概要

事業手法	・ DB／指定管理
土地／施設所有者	・ 太田市
施設整備主体	・ 整備：関東・梓特定建設工事共同企業体
整備費	・ 参考値 約82.5億円（ビジョン・照明・音響も含む）
キャパシティー	・ 延床面積：約11,000m ² ・ 立見席を含め5,000席以上を確保
立地	・ 東武鉄道東武線「竜舞駅」より徒歩20分、 「太田」駅バス下車後、バス乗車約12分
供用開始日	・ 2023年度（供用開始前）
利用料金	・ 未定
営業時間／休館日	・ 未定



太田アリーナの概要

施設概要／コンセプト等



■メインアリーナ

- 床面積約2,140㎡
- 天井高さ12.5m
- バスケット・バレーは国際基準に対応
- その他バドミントンコートの使用を想定

■席数内訳

- 1階 ロールバック 1,752席
- 2階 固定 2,793席 車いす26席
- 3階 ボックス席・ラウンジ129席

■その他

- サブアリーナも整備

【施設コンセプト】

- スポーツ活動、健康づくりを「する」場を提供できる市民スポーツ施設
市民の多様な活動をサポートするアリーナ
ユニバーサルデザインに配慮し、だれでも利用しやすい施設
- 避難所拠点として、[大規模災害時の避難や避難所の支援に対応できる施設](#)
災害時に1000人程度の避難者を受け入れることのできる施設
大地震に対して十分な構造強度を有する構造
インフラ遮断時にも3日間程度施設機能を維持できる設備
- 地元チームのホームアリーナとして、「持続的な地域活性化の核」となる愛される施設
[先端の映像、音響設備と多彩な演出に対応可能なアリーナ](#)
来場者にワンランク上のホスピタリティを提供できる観客席
賑わいを生む連携された エントランス 広場 サブアリーナ

【その他】

- 地方創生拠点整備交付金（国：10億円）、市町村競技別拠点スポーツ施設整備事業補助金（県：約1億円）のほか、企業版ふるさと納税を活用
- 太田市の地域再生計画 によれば、[企業版ふるさと納税にて、約30億円を調達](#)